

取扱説明書

1-7541-01

ドーム型真空デシケーターVD型

お買い上げ有り難うございます。

この度は、弊社製品をお買い上げいただきまして誠に有り難うございます。

本製品をより安全に、また、良好な状態でご使用いただくために、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。

また、製品を末永くご使用いただくために、この「取扱説明書」は大切に保管してください。

本品を譲渡・貸与される時には、新しい使用者が安全な正しい使い方を知るために、この取扱い説明書を、製品本体と共に必ずお渡しください。

 **アズワン株式会社**

安全上のご注意

この取扱説明書では製品を安全に、正しくご使用いただき、事故や損害を未然に防ぐため、安全上特に注意すべき事項についての情報を、その重要度や危険度によって下記のような警告表示で定義しますので、これらの指示に従って、安全にご使用いただくようお願い申し上げます。

各警告表示の定義

	危険	取扱いを誤ると、死亡または重症を負う可能性があります。		注意	取扱いを誤ると、軽度の人身事故・製品の破損の原因となることがあります。
	警告	取扱いを誤ると、重度の人身事故・製品の破損の原因となることがあります。		お願い	安全を確保するために注意が必要な事項。

いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守り下さい。

安全確保の図記

	特定しない、一般的な注意、警告、禁止事項		分解及び改造により感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止
	機器の特定の場所に触れると傷害が起こる可能性がある場合の禁止		感電の危険性の注意
	高温による傷害が起こる可能性がある場合の注意		破裂、爆発の危険性の注意
	指を挟みこむ危険がある場合の注意		ファン等に巻き込まれる危険性の注意
	特定しない一般的な使用者の行為		アース線の接続の指示

＜設置上の安全に関する注意＞

製品の設置にあたっては、安全な使用と製品の機能を十分に発揮させるため、次の項目をよくお読みの上、適切な場所をお選びください。

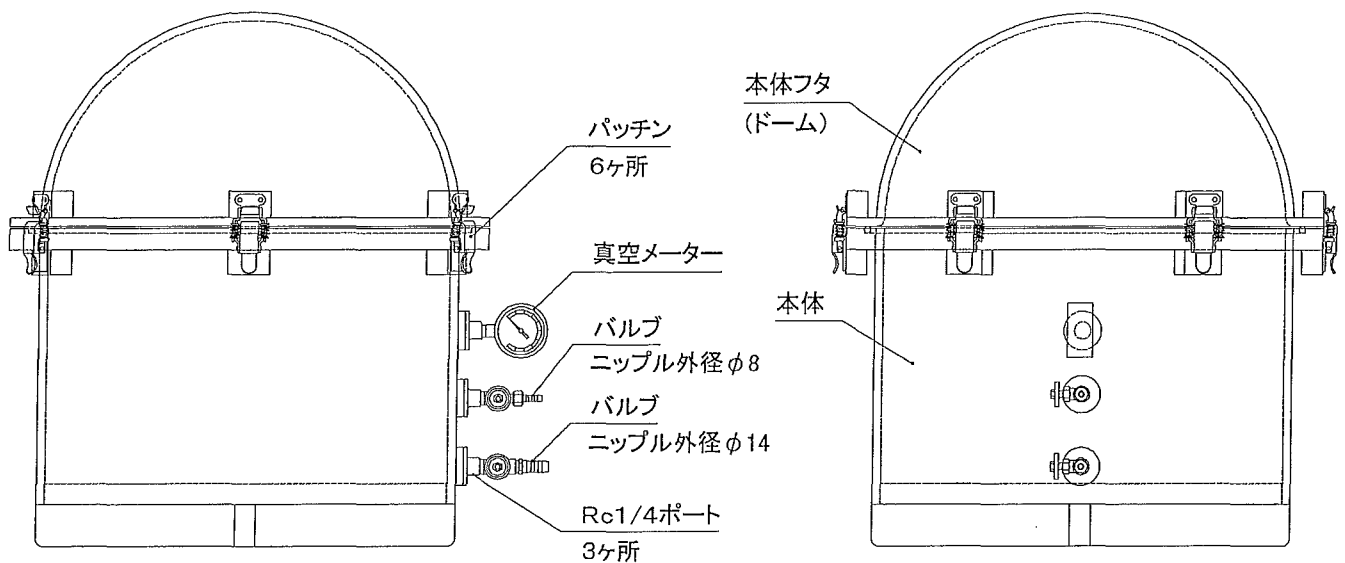
⚠ 警告	
	・60℃以上の高温物体（乾燥機等）に近接しないところでご使用下さい。本体が変形する恐れがあります。 ・近くに引火性の固体・液体・気体のないところでご使用下さい。 ・周囲温度が5～35℃以内のところでご使用下さい。
⚠ 注意	
	下記の条件を満たすところでご使用下さい。 ・水平で安定したところ。 ・直射日光のあたらないところ。 ・紫外線光源のないところ。

※ 本製品を屋外で使用することはできません。

＜使用上の安全に関する注意＞

⚠ 警告	
	・改造及び分解はしないでください。改造及び分解したものを使用して事故がおきた場合、当方は一切の責任を負いかねます。
	・引火性、爆発性のある気体・液体・固体は絶対に使用しないでください。火災や爆発事故の原因となります。 ・本品は、耐加圧構造にはなっておりません。絶対に加圧しないでください。
	・本品の大部分はアクリル製です。本品を乱暴に扱うと、破損してケガをする恐れがありますので、丁寧に扱ってください。 ・急な減圧や減圧中に外側より強い衝撃を与えると破損する恐れがあり危険です。 ・蓋の脱着はゆっくり行ってください。乱暴に扱うと破損してケガをする恐れがあります。
	・本製品の真空許容度は約133Pa (1Torr) です。これ以上の真空度にするると破損の恐れがあります。
⚠ 注意	
	・本品は、酸類（クローム酸等）・有機溶剤（アセトン、キシレン、クロロホルム、アルコール類、酢酸等）に侵されますので、これらの薬品を接触させないでください。 ・ガス置換を行う時は、低圧力で置換してください。 ・デシケーター内を真空にする場合及び常圧に戻す場合はバルブを調節して、急激な圧力変化が起こらないようにしてください。保管中の資料等が飛散したり、保管中の機器が故障する恐れがあります。 ・真空度の保持が悪い場合、蓋と本体との接合部やOリング（パッキン）の汚れや破損、真空計及びバルブやその取付部に不具合がないかをご確認ください。
	・アクリル板の耐熱性を考慮し、筐体温度が60℃以上となるような使い方はしないで下さい。

＜各部の名称＞



＜製品概要＞

- ・本製品は透明アクリル材料とドーム型構造により全方向から内部の観察が可能です。
- ・本体は減圧に強いドーム型で、約 133Pa (1Torr) まで減圧が可能です。
- ・密閉性の高いシリコンパッキンを使用しているのでグリスは不要です。

＜初めてご使用になる時＞

まず、バルブ及び圧力計を各々のネジ部にネジ込んでください。(この時、手で軽く締める程度で空気漏れはありません。)

⚠ 注意



モンキー、スパナー等の道具を使用して締めないようにお願いします。無理に強く締め付けますと、ねじ部破損の原因となり、破損箇所から空気漏れを起こします。

本品にはバルブが2種類付属しており、内径 7φ 又は 13φ の真空ゴム管を接続することができます。

＜空気漏れの発見の仕方＞

空気漏れのほとんどはバルブ及び圧力計のネジ部ですが、この場合は無理に締め付けても空気漏れは止まりません。

- ・一度全部取り外し、バルブ及び圧力計のネジ部、本体ネジ部のシールパッキンをきれいに取り除いてください。それから、新しく時計方向に4～5回シールパッキン（ニトフロン、パイプシール市販品）を巻き付け、再び本体のネジ部に手で締め付けてください。
- ・それでもなお空気漏れのある場合は、本体内に水をコップ1/2程度入れ、本体を閉めて少し減圧します。次に、本体の角度を変えて水を移動させますと、空気漏れの箇所から泡が発生します。空気漏れ箇所には、応急的には外側よりゴム粘土、真空グリス等を塗布して密閉できます。
- ・完全にするためには、納入業者に連絡くだされば、当方において完全修理を致します。

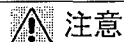
＜ご使用上の注意＞

- ・この真空デシケーターは、ご使用される時、減圧時に扉部分からキシミ音になる事がありますが、十分な安全を考えた設計になっておりますから、危険や、そのために破損する事は全くありません。
[大気圧(0.1013MPa)より0.095MPa以上の減圧で12時間放置後0.095MPa以上の減圧を示しているものを合格品としています。]
- ・真空計の目盛りは0～0.1Mpaになっており、大気圧からの減圧の目安を示すものです。[真空計の針が0.1MPaを指している時は、大気圧から0.1MPaの減圧、つまり絶対圧力で約1300Pa(10Torr)の真空を示しています。]
- ・正確な真空度を測るためには、真空マンメーター等の真空測定器をご使用ください。
- ・真空バルブは弁が針状のものですから、強く締めないようにしてください。指で軽く締めるだけで充分気密を保ち、空気漏れはありません。

＜お手入れについて＞

清掃は、お湯又は水を硬く絞った柔らかい布で拭いてください。

取れにくい汚れは、中性洗剤を使用し、洗剤の使用後は布で拭きとってください。



注意



- ・クレンザー（磨き粉）、シンナー、灯油、酸等、及びこれに類するものは、絶対に使用しないでください。

<仕様>

外寸 (mm)	W570×D570×H625 (バルブ、真空メーター含まず)
本体材質	透明アクリル樹脂
減圧許容範囲	約 133Pa (1Torr)
容積	約 80L
ガスコック接続口	Rc1/4
付属品	バルブ (真空ゴム管 φ8 用) : 1 個 バルブ (真空ゴム管 φ14 用) : 1 個 真空メーター : 1 個

第1版 2005年09月作成



■商品についてのお問い合わせは
カスタマー相談センター

フリーダイヤル  0120-700-875

FAX 0120-700-763

e-mail q@so.as-1.co.jp

受付時間：午前9時～12時、午後1時～5時30分
土・日・祝日及び弊社休業日はご利用できません